

令和4年11月号

# ノアAmi

## 春日部セントノア病院

〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>



# 2022/10/22 秋祭り

スナック写真集



ひとときではありましたが皆さんにとって心に残る時間となりましたでしょうか？ご協力頂きありがとうございました。

### ～目次～

- 事務屋の独り言
  - 日常の一コマ
  - いきいき看護・介護
  - P SWだより
  - 秋祭り
  - スタッフ紹介
- 瓦井 洋
  - 伏見 麻衣
  - 高井 正基
  - 渡邊 正基
  - 榎本 綾子

## 11月の予定

### ◇誕生日会

1病棟	11月	2日(水)
2病棟	11月	7日(月)
3病棟	11月	7日(月)
各病棟デイルーム 14:00~		



### スタッフ紹介

栄養科  
えのもと あやこ  
榎本 綾子

星座：みずがめ座  
血液型：O型  
趣味：推し活



7月に入職して3カ月が経ちました。まだまだ学ぶことが多く大変な時もありますが、先輩方に助けて頂きながら毎日仕事に励んでいます。プライベートでは娘と共通の好きなアイドルの話をしたり、動画を観たりしている時が一番の癒しの時間です。これからも仕事とプライベートのバランスを取りながら頑張っていきますので宜しくお願い致します。

『秋祭りに思う』

事務局長 瓦井 洋

春日部セントノア病院は、前月の22日、病院前庭において3年ぶりに「秋祭り」を実施いたしました。この秋祭り、まだ収まり切っていないコロナ禍での実施です。当然、賛否両論あります。この秋まつりは医療的に言えば、作業療法で言うところの「認知症状を改善するため」の『回想法（昔の楽しかった時の写真や現場を見せ、思い出させる）』の一環でもあるのですが、我々は、只々患者さんとご家族たちの楽しそうな笑顔が見たいと言う職員たちの強い願いと、「危機管理」の責任者である私の判断が一致したという事で実施しました。もちろん実施と言っても手放しという訳ではありません。参加されるご家族の人数はお二人までとし、屋外とはいえマスク着用のこと、ワクチンは3回接種が必要で、2回以下のご家族には「当日に当院にて抗原検査を受けて頂く」というご家族にとっては結構きつい制限でした。結果は天気もそこそこで、屋台の「焼きそば」「たこ焼き」「お汁粉」なども相も変わらず好評でしたし、何より、患者さんたちと職員たちとのコラボで送るアトラクションも拍手がやまず笑顔の連続でした。そしてご報告ですが、この「秋祭り」によつてのコロナ感染者は、患者さんと職員たちに一人も出ることはありませんでした。ただ、川越セントノア病院は、8月に職員と患者さんにクラスターが発生してしまい、その後は一人も陽性者は出していないものの、その時の看護・介護の厳しさや大変さがスタッフ達からは消えていないようで、残念ですが今回の秋祭りは見送りとなってしまいました。来年こそは、です。

さて、話は少し変わりますが、皆さんはユマニチュードと言う言葉を聞いたことがあるでしょうか。

前回の病院新聞の病院短信で、2病棟の渡辺弘子師長が認知症患者さんへの看護・介護においてユマニチュードがいかに大切か、事細かに書いてくれました。この短信を読んだとき、私は本当に嬉しくなりました。実はかくいう私も、ユマニチュードと言う言葉は聞いたことがあっても、その言葉の意味すら全く知りませんでした（職務怠慢ですね）。当院の看護・介護をするスタッフ達から「知らないんですか」と怒られそうなので急いで調べてみました。『ユマニチュード』、語源はフランス語ですが造語だそうです。そしてその意味は『人間らしく（その人らしく）』だそうです。最近では特に認知症の患者の看護・介護においてユマニチュード、すなわち看護・介護の基本事項である「見る」「話す」「触れる」「立つ」を行う上で『人間らしく（その人らしく）』をないがしろにしてはならない。これがフランス発祥の、今や、看護・介護のトレンドになりつつあるそうです。

この『人間らしく（その人らしく）』。どこかで聞いたことがあるような、と思つたら、そうでした。ここからは私の全くの手前みそになります。今から20年前と17年前に、私が川越と春日部にセントノア病院を設立した時に、病院の運営を行う上で、職務を行う看護職員や介護職員たちに4つの理念（身体拘束は行わない。延命を目的とした治療は行わない。寝たきりをつくらぬ。最後までその人らしく）を挙げ、実践できない理念など意味がない、と再三にわたり厳しく話をして来ました。その4つ目に挙げたのが『最後までその人らしく』だったので。

私が喜んだのは、私と共にこの病院の職務をおこなってくれる職員たちが、ユマニチュードを通じて、私の思いを具現化し実践してくれている、又は実践しようとしてくれる事が本当に嬉しかったのです。セントノア病院の仲間たちよ『ユマニチュード』を勉強するだけでなく、ごく普通にできるように日々研鑽し頑張ろうじゃないか。患者さん達の為に。



日常の一コマ

今月の一コマは2病棟の美津子さんです。美津子さんは埼玉県鳩山町で5人兄弟の2番目として生まれました。その後、浦和市の医院に住み込みで働きながら看護学校に通い、卒業後は診療所に勤め23歳で結婚、3人のお子さんに恵まれました。26歳の頃に土地開発のチラシを見て杉戸町に家を建てて転居し、33歳頃から杉戸町保健センターに勤められました。60歳で定年後は、夫婦二人で旅行を楽しんだりしていましたが、平成17年にご主人が先立たれました。美津子さんはもともと明るく社交的な性格だったので、一人暮らしになってからは友人や妹と会っておしゃべりしたり、買い物に出かけたりして過ごしていたそうです。

平成28年頃から物忘れが出現し始め、長女さんが車を買替えた時、「車替えたの？」と何度も尋ねたりすることがありました。とは言っても、話しているうちに思い出すことが多く、長女さんは年相応かと思っていたそうです。平成30年頃、駐車場で壁にぶつかり物損事故を起こし、その際に実施した認知症機能検査で認知症が判明。令和2年には、次男さんがコーヒーを飲もうとやかんからお湯を注いだところ、なんとやかんに入っていたのはお湯ではなく灯油だったそうです。それからは美津子さんから目が離せない日常となり、次男さんが美津子さん宅に泊まり込んで対応することも多くなりましたが、いよいよ在宅での介護が限界となって令和3年の5月に当院へ入院されました。

入院当初の美津子さんは、看護師の仕事をしていたこともあり、食事の介助を手伝おうとしたり、洋服を着せてあげようとしていたりしてくださいます。とても優しい美津子さんなのですが、時々、お世話を焼き過ぎて他の

患者さんから怒られてしまうこともありました。当初はスタッフから声かけをして会話をするが多かったのですが、入院生活にも慣れてくると、美津子さんからスタッフに話しかけてきて下さったり、気の合う患者さんとお話をされたり、歌を唄ったりして、笑顔で過ごされるようになりました。

時々スーパーのチラシなどを見て、「これ美味しそうだね」と嬉しそうに話されたりする美津子さん。これからも美津子さんが毎日笑顔で楽しく過ごしてもらえよう、スタッフ一同見守っていきたく思います。

2病棟 介護福祉士 伏見 麻衣



PSW だより

今年、当院では3年ぶりに秋祭りが開催されました。私たち職員一同も初心に帰った気持ちで準備に励み、当日は大成功を収めることができました。ご来院下さいましたご家族の皆様におかれましては、検温や消毒、マスクの着用にご協力頂き、誠にありがとうございました。久しぶりの方も初めての方も、秋祭りという当院にとって特別なイベントはいかがだったでしょうか。

認知症は季節感を感じることが難しい病気なので、こういった盛大なイベントを開くことで、患者さんにとって充実した時間になってくれたらいいなと心より願います。また来年、秋祭りの舞台上皆様とお会いできることを楽しみにしております。

精神保健福祉士 渡邊 正基



いきいき看護・介護

2病棟 介護主任

高井 正基

花笠を手に右へ左へ、患者さんが小気味よく踊る姿。以前は、毎年この時期になるとよく目にする光景でしたが、ここ数年は見ることはありませんでした。それが今年10月に入ってから各病棟で見かけるようになったのです。そう、当院名物の秋祭りが3年ぶりに開催されました。

秋祭りのアトラクション準備のため、連日午後になると患者さんと一緒に踊りの練習を行ってきました。ある患者さんは活き活きと踊り、またある患者さんは多少間違っているも堂々と踊ります。踊りの練習も患者さんにとってはリハビリであり、レクリエーションなのです。当日は、会場の皆さんと一緒にいろいろな踊りを楽しむことが出来ました。また、焼きそばやたこ焼きなどの各種屋台も存分に楽しんで頂けたことと思えます。秋祭りは患者さんたちが日頃の練習の成果を発揮する晴れの舞台でもあります。大勢のご家族様にご来場頂き、大盛況のうちに幕を閉じることが出来たこと、改めて感謝申し上げます。

